

## 第二部 日本語教育実践研究Ⅱ

## 平成 27 年度 日本語教育実践研究Ⅱ実施概要

屋名池 明

## 1. はじめに

日本語教育実践研究Ⅱは、筑波大学大学院人文社会研究科国際地域研究専攻日本語教育研究コースの日本語教師養成プログラムの必修科目である。同科目においては、同コースの2年生が筑波大学人文文化学群日本語・日本文化学類の4年生と合同で、日本語授業のカリキュラムの編成や受講生の募集・教案・教材作成、教授授業、授業分析などの一連の活動を行い、日本語教育におけるさまざまな技能を学ぶ。

今年度は6月1日から7月23日までの間、日本語教育研究コース所属の2年生13名（日本人2名・中国人留学生11名）と日本語・日本文化学類所属の4年生2名（日本人）、計15名が教壇実習を行った。以下、今年度の概要を述べる。

## 2. 実習の流れ

教壇実習そのものは約1ヶ月半であったが、事前の準備や実習後の反省会などを行ったため、全体としては約10ヶ月を費やした。表1に実習の流れを示す。

表1 実習の流れ

年月日	活動内容
平成 26 年 11 月 11 日	実習の引き継ぎ、係、勉強会の日程、勉強会の方針を決定
平成 27 年 1 月～2 月	大学院生・学類生による合同自主勉強会
4 月 13 日～5 月 25 日	通常授業（一二三先生、松崎先生、TF 2 名、TA 1 名）
4 月 27 日	受講者募集開始
5 月 18 日	受講者募集締め切り
5 月 15 日～5 月 21 日	プレースメントテスト・受講者・クラス分けの決定
6 月 1 日	教壇実習の開始
7 月 23 日	教壇実習終了
7 月 27 日	実習反省会およびアクション・リサーチ報告の進捗状況発表 （一二三先生、松崎先生、TF 2 名、TA 1 名）
8 月 22 日	実習レポート（アクション・リサーチ報告）提出

## 3. 実習準備

平成 26 年 11 月より、実習の準備を開始した。以下、その内容について述べていく。

### 3. 1 勉強会

平成 26 年 11 月に前年度の実習生から引き継ぎを受けた後、翌年の 1 月から 2 月にかけて週 1 回、大学院生と学類生合同で勉強会を行った。教壇に立つ実習生の大半がそれまでに日本語を教えた経験がなかったため、勉強会では主に『日本語教師のための「授業力を磨く」30 のテーマ』（アルク）を講読し、教案の作成や日本語授業を行う上で必要となる基礎知識を確認し、話し合った。なお、勉強会は 2 つのグループ（3 限・5 限）に分かれて行った。表 2 と表 3 に 3 限グループと 5 限グループそれぞれが取り上げたトピックを示す。

表 2 勉強会の内容（3 限）

年月日	トピック
平成 27 年 1 月 6 日	「語彙の導入手順について」「教案について」「学生への対応について」
1 月 13 日	「実習について」「ドリルについて」「ゲームについて」「フィードバックの方法について」
1 月 27 日	「音声指導について」「話す速さについて」「教科書の選択について」
2 月 3 日	「音声ソフトの導入について」、「授業の文字化について」、「実習の準備について」「教師としての人間性に関する配慮について」

表 3 勉強会の内容（5 限）

年月日	トピック
平成 27 年 1 月 6 日	「教案について」「語彙の導入について」「媒介語について」
1 月 13 日	「授業分析法『FOCUS』について」「ゲームの目的について」「インフォメーション・ギャップについて」「ソロとコーラス反復について」
1 月 27 日	「文法説明について」「会話指導について」
2 月 3 日	「アクション・リサーチについて」「会話の提示方法について」

### 3. 2 教員立会いの準備

4 月 13 日から 5 月 25 日までは、毎週月曜日に教員立会いのもと、実習の準備を行った。表 4 に示す通り、この期間中は主にミニティーチング及びアクション・リサーチのテーマの発表を行った。

表 4 教員立会いによる実習の準備

年月日	活動内容
平成 27 年 4 月 13 日	各係の進捗状況、アクション・リサーチのテーマの発表
4 月 20 日	各グループに分かれて、ミニティーチング
4 月 27 日	各グループに分かれて、ミニティーチング
5 月 11 日	各グループに分かれて、ミニティーチング
5 月 18 日	各グループに分かれて、ミニティーチング
5 月 25 日	反省会（全体）、アクション・リサーチのテーマ発表

### 3. 3 実習運営

本実習では、実習生は教えるだけではなく、受講生募集やカリキュラム作成など、教室運営全般に関わる業務に携わる。そのため、実習運営のために4つの係を設け、実習生全員で分担した。ただし、係を決めた時点では、実習に参加する学類生が確定していなかった。そのため、業務は大学院生で分担した。各係の進捗状況の報告や連絡は、勉強会やメーリングリスト、共有フォルダを通じて行った。表5に係と仕事内容を示す。

表5 係と仕事内容

係名	人数	仕事内容
カリキュラム	1名	1. カリキュラムの管理
募集	8名	1. Facebook の立ち上げ、連絡用のメールボックスの作成 2. ポスター作成 3. 申し込み受付 4. ニーズ調査の作成・実施 5. レディネス調査の作成・実施 6. プレースメントテストの作成・実施
実習生	2名	1. メーリングリストの作成・管理 2. 共有フォルダの管理 3. 見学日の調整
備品	2名	1. 備品の管理・発注 2. 使用教室の利用申請・鍵担当の調整 3. 撮影マニュアル作成・配布

## 4. 教壇実習

事前準備を経て、6月1日から7月23日までの約1ヶ月半、教壇実習を行った。

### 4. 1 受講者とクラス設定

4月27日から5月19日まで受講者の募集活動を行った。学内や学外のコンビニや飲食店などのポスター掲示、筑波大学留学生センターでの呼びかけやビラ配りなどを通して募集活動を行った。

今年度は、33名の受講申し込みがあった。クラスのレベルを把握するために、申込者に対して、プレースメントテストおよびニーズ・レディネス調査を実施し、その結果に基づいてクラスをJ1とJ2のクラスに分けた。J1クラスはゼロレベルに相当し、J2クラスは日本語が少しできる程度のクラスである。申込者のうち9名は、レベルが高すぎる、もしくは、スケジュールが合わないという理由から、受け入れを断念し、メールでお礼と謝罪を述べた。以下、表6にプレースメントテストの問題を、表7にニーズ・レディネス調査における質問を、表8にクラス構成を示す。

表 6 プレースメントテスト

- Please read the hiragana and katakana below.
- a) あおい、いっしょに、たべる、せんせい、かんぱい  
b) カメラ、デパート、スイッチ、ニュース、パソコン
- Write down the price you hear.  
6 円、100 円、32 円、1 万円、4 千 500 円
- Tell the time in Japanese.  
8:00、2:30、9:00、4:30、7:15
- Please translate the following words into Japanese as many as you could.  
student, morning, afternoon, white, black, red, this, that, next week, key, today, station, coffee, television, pencil
- Please answer the following questions.
- How do you say “Good morning” / “Good afternoon” / “Good evening” in Japanese?
  - How do you say “Excuse me” in Japanese?
  - You are introducing your friend, Hanako, to others. How do you say “This is Hanako” in Japanese?
  - When do you say 「いただきます」?
  - Please say Monday to Sunday in Japanese.
  - Please count one to ten in Japanese.
  - You want to go somewhere and you want to know how to get there. How do you say “I want to go to…”?
  - What will you probably say when you invite someone to dinner?
  - What will you probably say when you accept the invitation?
  - What will you probably say when you refuse the invitation?
  - What will you probably say when you ask for the location of some place?
  - Now you are at a convenience store, and you want to buy three pieces of fried chicken, what will you probably say?
  - You have lost something in a shopping center and you want find out whether the item has been delivered to information office. What will you say?
  - Please introduce yourself in Japanese.

表 7 ニーズ・レディネス調査

1. In your day-to-day life in Japan, in what kind of situation do you get in trouble by not knowing Japanese?
2. What would you like to do with Japanese in the future?
3. How long and where have you learned Japanese?

4. How long will you stay in Japan?
5. How much time can you spend on studying Japanese every day?
6. Our classes will focus on natural Japanese expressions in specific situations such as inviting someone for dinner or asking someone for help. We will not focus on grammars. Are you OK with it?
7. If you are OK with question 6, then what kinds of expressions do you want to learn mostly?

表 8 クラス構成

	J 1	J 2
学習者のレベル	ほぼゼロ (ひらがなが読める程度)	日本語が少しできる (初級前半)
人数	15 名	9 名
国籍	ウズベキスタン (1 人)、タジキスタン (1 人)、ベトナム (1 人)、インドネシア (2 人) インド (1 人)、バングラデッシュ (4 人)、スリランカ (1 人)、ケニア (1 人)、ナイジェリア (1 人)、モザンビーク (1 人)、ルーマニア (1 人)	インドネシア (4 人)、中国 (2 人)、モンゴル (1 人)、ベトナム (1 人)、ルーマニア (1 人)、
内容 (場面・機能など)	自己紹介する、場所を尋ねる、注文する、忘れ物を探す、買い物する、誘う、病院へ行く、パーティへ行く	場所を尋ねる、買い物、市役所、病院、美容院、誘う
開講日	木曜日	月曜日
コマ数/週	3 コマ/週	3 コマ/週

#### 4. 2 実習グループ

今年度は、実習生を二つのグループ (J 1・J 2) に分けた。グループ分けに当たっては、日本人と留学生、日本語教授経験者と未経験者、大学院生と学類生などのバランスを考慮した。その結果、J 1 グループは 8 名、J 2 グループは 7 名となった。

#### 4. 3 授業の方針と方法

1 コマ 40 分の授業を 1 日 3 コマ実施した。1 コマ目・2 コマ目は、新出文型や語彙の導入及びタスク、3 コマ目は 1 コマ目・2 コマ目で学習した内容を活かして、学習者が設定された場面で会話ができるように練習させることを授業の方針とした。つまり、3 コマの授業を 1 つの場面で連携させ、毎回の授業で習ったことがすぐ生活に生かせることを目的とした。

授業は、基本的に日本語のみを使用する直接法で行った。実習生が授業を行っている間、指導教員及び TF・TA、同じグループの他の実習生は、実習室の隣にある観察室において授業の観察・評価を行った。ビジター (大学院一年生・学類三年生) は、教室内において授業を観察しながら、必要に応じて、実習生のサポートをした。3 コマの授業の後は、指導教員と TF・TA、実習生、ビジターで反

省会を行った。全ての授業は、実習室に設置してある 2 台のカメラで撮影・録画された。

なお、J1・J2 のカリキュラムを立てる際には様々な教科書を参考にしたが、クラスでは特に教科書は使用しなかった。その代わりに、授業後には、新出語彙や新出文型をまとめたリストを配布した。

#### 4. 4 授業の内容

J1 は毎週木曜日に、J2 は毎週月曜日に授業を実施した。授業内容については、プレースメントテストとニーズ・レディネス調査の結果を基に、学習者のニーズに合わせたカリキュラムを立てた。基本的には 1 日の授業において 1 つの場面を設定し、その場面において、ある程度会話ができるようになることを目標とした。以下、表 9 に J1 のカリキュラムを、表 10 に J2 のカリキュラムを示す。なお、学習項目には主に新出文型および新出表現を挙げ、新出単語は割愛した。

表 9 J1 のカリキュラム

授業・日付	場面	コマ	Can-do	学習項目
第 1 週目 6 月 4 日	自己紹介する	1	●簡単な自己紹介ができる	「〈人名〉です」「〈人名〉と呼んでください」「おはようございます／こんにちは／こんばんは」「初めまして」「どうぞよろしくお願ひします」
		2	●他人に聞くことができる・聞かれたら答えられる (出身国・来日時期)	「どこから来ましたか」「～から来ました」「いつ来ましたか」「～に来ました」
		3	●自分の趣味を言うことができる	「趣味はなんですか」「〈読書〉です」「～さんは「いいですね」
第 2 週目 6 月 11 日	場所を尋ねる	1	●場所を尋ねることができる	「〈図書館〉はどこですか」「ここです」「今、どこですか」「あのう、すみません」「ありがとうございます」「すみません、わかりません」
		2	●場所の具体的な位置を尋ねることができる	「〈ATM〉の〈近く〉です」「〈2階〉の〈ATM〉の〈近く〉です」「～は何階ですか」「～はどの辺ですか」
		3	●商品の場所を尋ねることができる	「〈トイレ〉は〈そこ〉です」「〈ATM〉はあそこです」「あ、そうですか」「わかりました」
第 3 週目 6 月 18 日	注文する	1	●メニューを指さしながら、注文することができる ●レストランで店員の言葉を理解することができる	「〈これ〉をください」「あと、〈コーラ〉をください」「いらっしやいませ」「何名様でしょうか」「こちらへどうぞ」「かしこまりました」
		2	●簡単な表現を使って、居酒屋で注文することができる	「禁煙席と喫煙席どちらになさいますか」「禁煙席／喫煙席です」「〈ビール〉〈3つ〉ください」「～にします」「ご注文を確認させていただきます」
		3	●居酒屋で注文することが	「〈これ〉と〈これ〉にします」「〈コーラ〉〈2つ〉と〈唐揚

			できる	げ>ください」「ごいっしょでよろしいですか」「別々 でお願いします」
第4週目 6月25日	忘れ物 を探す	1	●自分の忘れたものを相手に伝えることができる	「すみません」「昨日、<傘>を忘れたんですが」「少々お待ちください」「これですか」「あっ、はい、そう/それです」「いいえ、それじゃありません」
		2	●忘れ物の特徴を簡単に述べるができる	「どんなく傘>ですか」「<黒>の<傘>です」
		3	●実際の場面で忘れ物を確認することができる	「いつごろ」「どのような」「どの辺」「～か～です」「大変申し訳ございません」
第5週目 7月2日	買い物 する	1	●スーパーで商品の場所を尋ねることができる	「<電池>、ありますか」「<あちら>にあります」「<映画>の<本>」「ごさいません」「申し訳ございません」「ご案内します」
		2	●服を買うときに、自分の欲しい色があるか尋ねられる	「これ、<赤の>ありますか」
		3	●買い物をするときに、友達からアドバイスをもらうことができる ●買い物をするときに、友達にアドバイスをすることができる	「どっち/何色ががいい」「こっちがいい」「～にします」「～と思います」「そうですね」「じゃ、こっちにします」「でも、こっちにします」
第6週目 7月9日	誘う	1	●友達を誘うことができる ●誘いを受けたり、断ったりすることができる	「～を食べます」「～を飲みます」「～に行きます」「～をします」「～を見ます」「～ませんか」「～見に行きませんか」「～飲みに行きませんか」「しましよ」「行きましよう」「大丈夫（否定の意味）」「～はちょっと」「<アルバイト>がありますから」「じゃ、また今度」
		2	●友達を誘うとき、相手の好みや意見を聞くことができる	「～が好きです」「時間がありますか」
		3	●待合せの場所と時間を決めて、約束することができる	「何時に会いますか」「どこで会いますか」「いいですよ」
第7週目 7月16日	病院へ 行く	1	●体調が悪くなったとき、症状を簡単に話して早退を申し出ることができる ●友達に病院まで連れてってもらえることができる	「頭が痛い」「頭が痛くて」「大丈夫ですか」「お大事に」「早く帰ってもいいですか」「一緒に病院に行ってくださいませんか」



		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●病院での受付の流れを把握し、医者からの指示を理解することができる</li> <li>●医者からの簡単な質問に対して、短い簡単な言葉で答えることができる</li> </ul>	「どうされましたか」「咳」が出ます」「いつからですか」「昨日」からです」「お待ちください」「様子をみましょう」「服をまくってください」
		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●薬の使用法の説明を理解することができる</li> </ul>	「こちらは（朝晩）」「1日に（2回）」「（昼食前）にお（飲み）ください」「出します」
第8週目 7月23日	パーティーへ行く	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パーティーのとき、相手に何か頼んだりすることができる</li> </ul>	「～ましょうか」
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本語を使って、パーティーに参加することができる</li> </ul>	総復習（パーティー実施）
		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本語を使って、パーティーに参加することができる</li> </ul>	総復習（パーティー実施）

表 10 J2のカリキュラム

授業・日付	場面	コマ	Can-do	学習項目
第1週目 6月1日	場所を尋ねる	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人に場所を尋ねることができる</li> <li>●道を尋ねられた際に、一緒に行ってあげることができる</li> </ul>	自己紹介、国名、「一緒に行きましょう」
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●場所の説明をしたり、説明を聞いたりすることができる</li> </ul>	「～はどこにありますか」
		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●場所を尋ねたり、相手に説明したりすることができる</li> </ul>	「～に行きたいんですが」「どの駅で降りたらいいですか」「〇〇駅で降りてください。」
第2週目 6月8日	買い物	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンビニやスーパーで見つからないものを店員に尋ねることができる</li> <li>●簡単な助数詞を使って、欲しいものの数などを表現することができる</li> </ul>	「こちらです」「（欲しい）んですが」「ひとつ、ふたつ…」「こちらを〇つください」「こちらを〇つお願いします」
		2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンビニで会計する際、店</li> </ul>	「はい、お願いします」「いいえ、結構です」お金の

			<p>員の発話を理解し、反応することができる</p> <p>●会計する際に、数字の聞き取りができる</p>	数え方
		3	<p>●簡単な助数詞を使って、欲しいものの数などを表現することができる</p> <p>●商品購入の際、簡単な敬語表現を使って店員の発話を理解したり指示を出したりすることができる</p>	<p>「～をいただけますか」「（温め／分け）てください」</p> <p>「～をお願いします」「～本」</p>
第3週目 6月15日	市役所	1	●国外転居の際の市役所での諸手続きに関して、聞いて理解することができる	市役所で用いられる単語
		2	●市役所での書類の受け取りや届け出の際に、受け答えができる	<p>「～に住んでいます」「～てから」「もう一度～」</p> <p>「少々お待ちください」「合っていますか」</p>
		3	●ビザ関連の書類が理解できる	<p>「～したいんですけど」「どんな書類が必要ですか」</p> <p>「すみません」「もう一度お願いします」「手数料はいくらですか」「失礼します」</p>
第4週目 6月22日	病院①	1	●病院の受付でのやりとりができる	「～てください」「～は～語でどういいますか」
		2	<p>●病院や市役所などで場所の説明をされたとき、指示を聞きとることができる</p> <p>●自分の家について、簡単に場所を説明することができる</p>	<p>「～のどこですか？（聞き直し）」「～つ目の角を右／左に曲がると…」</p>
		3	<p>●医者 of 指示を理解し、従うことができる</p> <p>●自分の病状について説明することができる</p>	「〈咳がひど〉くて、〈頭が痛い〉んです」「～てもいいですか」
第5週目 6月29日	病院②	1	●薬の飲み方の説明を理解することができる	「～なければなりません」「～ないといけません」「～まえに」「～あとで」
		2	●歯医者で自身の症状を伝えることができる	「〈右の奥歯〉が痛むんです」「～ぐらい前からです」

			●歯医者を受付でのやりと りができる	
		3	●病院での一通りの会話が できる	復習（4、5週目のまとめ）
第 6 週目 7月 6 日	美容院	1	●電話で美容院の予約がで きる	「〈カットの〉予約したいんですけど」「申し訳ござ いません」
		2	●美容院を受付でのやりと りができる ●相手の申し出を受け入れ たり、断ったりすることがで きる ●雑誌を使って、自分が希望 する髪型を伝えることがで きる	「いいです」「いいですね」「どれくらい」「これくら い」
		3	●上、下、右、左などの表現 を用いてももの位置につい ての話ができる ●自分の意志を伝えて交渉 できる ●美容院で必要となる基本 的な会話ができる	「もう少し〜くしてください」
第 7 週目 7月 13 日	誘う	1	●友人を遊びに誘うことが できる ●遊びに行く場所を、相手と 一緒に決めることができる	「〈一緒に遊び〉に行きませんか」「〜より近いです」 「〈鎌倉〉に行きましょう」
		2	●遊びに行く日時を、相手と 一緒に決めることができる	「〈行く〉ことにします」「〜にします」
		3	●遊びに行く日程と場所を、 相手と一緒に決めることが できる	「〈暑〉そう（推量）」

## 5. 教壇実習後の活動

教壇実習後、反省会および実習レポートの構想発表を行った。実習レポートとは日本語教育実践研究Ⅱの必須課題である。日本語を教える上での技術を高めるため、実習生は自分のテーマについて、

各自の実習のビデオ、教案、授業後の反省会でのコメント、反省会の議事録などのデータを基に、分析を行う。反省会では、実習生が自分のテーマに沿って、感じたことや気付いたこと、改善点などを話し合った。

## 6. 今年度の実習後の反省と評価

今年度の実習の目標は「学習者のニーズと実生活に役立つ日本語を教えることを重視した場面シラバス」を作成することである。従来の文法シラバスと異なり、場面シラバスを選択した理由は、学習者を一刻も早く日本の生活に慣れさせるためである。学習者のプレースメントテストとニーズ・レディネス調査の結果からも、日本で日常生活を送る上で遭遇する場面において何と云ってよいかかわらないという不安を、多くの学習者が抱いていることがわかった。J1のようにゼロレベルの学習者は尚更であろう。そのような学習者たちのために少しでも実生活に役立つ日本語を教えるため、J1とJ2両方のクラスにおいて、学習者のニーズに合わせたトピックを選んだ。

しかし、反省しなければならない点もいくつかある。まず、実習生の連携が不十分であった。1日に3コマあったが、ティーチャートークやローマ字表記が統一されておらず、学習者の混乱を招きかねない場面もあった。また、新出表現や文型の導入において、学習者にただ復唱させるだけで済ませた場面もいくつか見られた。そのため、授業では覚え、言うことのできた学習項目を、学習者たちが実際に、実生活の中で使用できるようになったかどうかは定かではない。

評価できる点としては、主に2つある。1つ目は、学習者の意欲を掻き立てることができたことである。最後の授業では学習者から、まだまだ勉強したいという声や、同様のコースが再び開講される時は知らせてほしいとの声が上がっていた。2つ目は、実習生自身の成長である。本実習では、実習方針の決定、教材分析、受講者の募集、プレースメントテストの実施、シラバス・教案作成および授業の実施という、日本語クラスを運営するにあたっての一連の過程を経験することができた。計15名の実習生の大半が教壇に立った経験がなかったが、本実習を終えた今は、日本語を教える上で必要な基礎知識およびスキルが身に付いたと感じている。

## 7. 終わりに

本実習の概要は以上の通りである。今回の教育実習では大変貴重な経験を得ることができた。実習生にとっては初めての経験が多く、準備段階から多くの困難に直面したが、さまざまなバックグラウンドを持った実習生がお互いに協力し合うことで、多様な観点から問題解決に当たることができた。準備、教壇実習、実習レポートの作成を通して学んだことは、きっと今後の日本語教育活動に生かされるであろう。

## 参考文献

河野俊之・小河原義朗（2006）『日本語教師のための「授業力を磨く」30のテーマ』アルク